

# 古河駐屯地司令に平栗陸将補着任

平成二十八年三月二十三日、平栗陸将補が、第三十六代古河駐屯地司令として着任した。「地域とともに活気あふれる駐屯地」を駐屯地司令として要望された。また、訓示では、駐屯地とは、隊員一人一人が協力し、修養の場として必要な施設・環境作りを行い、また、憩いの場・休養の場として必要な、しっかりした警備及びサービスの充実を図る事が重要であると、所信の一端を述べた。

また、駐屯地初度視察においては、隊員の勤務場所・営内居室・工場・倉庫等を視察するとともに、隊員を激励し、現状を把握した。



第36代 古河駐屯地司令  
平栗陸将補

「地域とともに  
活気あふれる駐屯地」

駐屯地司令要望事項

## 駐屯地観桜会



尺八・大正琴演奏



歌手「北条きよ美」さん  
歌謡ショー



後援会会長  
青木政夫様



協力会会長(古河市長)  
菅谷憲一郎様



駐屯地司令挨拶



格闘



銃剣道



乾杯



新着任部隊長等の紹介

駐屯地は四月二日に、古河駐屯地後援会主催による「駐屯地観桜会」を支援した。

本会は、古河市長及び茨城県議会議員を始め、古河市議会議員、隊友会古河・下館支部長等、総勢百八十六名の参加者により体育館にて盛会に行われた。

桜も見頃となったこの日、主催者後援会会長 青木政夫様の挨拶及び駐屯地司令挨拶、来賓紹介、祝電披露、新着任部隊長等の紹介の後、古河自衛隊協力会会長（古河市長）菅谷憲一郎様による乾杯を皮切りに、尺八と大正琴の演奏や歌謡ショー・駐屯地隊員による演舞（訓練展示）銃剣道・格闘などで大いに盛り上がり、参加者間の親睦を深めることが出来た。



# MAMOR 撮影 in 古河



駐屯地における撮影風景



七月八日に、MAMORの撮影が、この部隊の屋敷の隅々まで行われ、古河駐屯地で行われた。今回は第一編集部により第一施設団が選ばれ、九二式浮橋のへん水を背景にした、迫力ある写真や、朝礼台やジープを使用した写真等の撮影に協力した。

# 転入部隊長等及び転入者の紹介



支処長 重村 1 佐

支処 施設部長 森岡 1 佐

D S 大隊長 村田 2 佐



器材隊長 八島 2 佐



高射中隊長 長谷 3 佐



高射 D S 小隊長 日向野 2 尉

三月二十三日付で転入部隊長等を含め四十名の隊員が、四月一日付で十九名の事務官等が、新戦力として古河駐屯地に転入した。



転入自衛官 34 名



転入事務官等 19 名



委託式



概要説明

## 駐屯地モニター会議

三月十五日、平成二十七年年度駐屯地モニター修了式及び平成二十八年年度駐屯地モニター委嘱式を実施した。修了者に対し、引き続き駐屯地に対する意見・要望等をお願いし、委嘱者に対しては、モニター役割を説明するとともに、自衛隊（駐屯地）の概要及び活動等を説明した。また、駐屯地部隊長等と意見交換を行い、駐屯地と地域社会との一体化を図るとともに、親近感の醸成を図った。



境町立 静小学校



境町立 長田小学校

## 音楽演奏会

三月三日、東部方面音楽隊の協力を受け、駐屯地広報隊区内の二校の小学校で演奏会を実施した。音楽隊の入場とともに、楽器の演奏から始まり、音楽隊の演奏に合わせた児童達の校歌斉唱や、重厚なクラシック曲、音楽隊員による歌も披露された。初めは大きな音に圧倒された児童達も、だんだんと音に慣れ、最後には大きな声で合唱し、大盛況のうちに幕を閉じた。

## 定年退職者（予定）の紹介



支処 藤野 1 曹  
4月8日付



D S 奥津准尉  
7月13日付



支処 鈴木曹長  
7月19日付



団付 小林曹長  
7月24日付



ヘリ隊による安全教育



UH-1 前にて記念撮影

## ヘリ体験搭乗

二月十三日、駐屯地宮庭において東方航空隊の支援を受け、航空機体験搭乗を実施した。当日の天候は、快晴と絶好の飛行日和となった。協力の飛行日和となった。協力会、後援会及びモニター等の招待者、六十二名が参加した。参加者達は、当初、搭乗時の注意事項等の安全教育、機種（UH-1）及び飛行経路の説明を受け、約十分間の飛行を十分に楽しんだ。搭乗が終了すると、参加者からは、「貴重な体験が出来ました。」「楽しかったです。もっと乗りたいです。」等の満足した感想が聞かれ、好評のうちに終了した。



# 関東補給処古河支処

## 支処創立十八周年記念行事

三月五日、施設補給処OB会との共催により、古河支処創立十八周年記念行事を挙行了した。当日は、感謝状贈呈式において、協力企業二社及びOB会関係者二名に対し、支処長から感謝状を贈呈し、日頃の御協力に対し感謝の意を表するとともに、記念祝賀会食では、部内外からの多数の来賓、OB会員等の参加を得て、盛大に創立十八周年を祝うことができ、記念行事は成功裡に終了した。



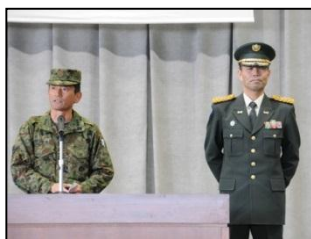
感謝状贈呈



記念祝賀会食

## 重村支処長着任

三月二十三日付で施設学校教育部長から第一代古河支処長として重村一佐が着任した。重村一佐は、着任の辞において「東日本大震災災害派遣に第六師団第三部長として参加した際、全国の補給処からの支援が大変、有難かった。」と自身の経験を踏まえ、支処長要望事項として、「作戦を支える気概」と「匠の継承」の二点を要望した。着任式終了後、重村新支処長は、支処の概要等について状況報告を受けるとともに、各施設を巡視し、隊員に声を掛けながら、支処の現況を確認した。



処長による紹介



施設巡視

# 古河駐屯地業務隊

## 創隊六十二周年記念行事



二月二十八日、OB会である刀水会会員多数の参加を得て、創隊六十二周年記念行事を祝った。祝賀会食には、刀水会会員二十六名のご参加をいただき、終始和やかにそして晴れやかに現役隊員とOB会員との懇談が行われ、大盛会のうちに幕を閉じることができた。



## 初動対処部隊への補給品交付要領普及訓練



二月四日、補給主務者会同と臨時給養業務担当者会同の機会を活用し、燃料給油所、備蓄品倉庫及び糧食倉庫において、現地現物をもって各部隊の業務担当者及び災害初動対処要員（代表）を対象とした補給品交付要領、特に、集積場所及び表示内容の説明と普及を行った。先月一月十八日、業務隊の補給科員及び当直要員等に対する普及訓練と合わせ、大規模震災等発生時の初動対処部隊への各種補給品を整齐円滑に交付する態勢が出来きたが、油断することなく継続的に普及教育と訓練を繰り返し実施して、間断のない支援に努める所存である。



## 生活習慣病検診



血圧測定の様状

二月二十三日から、二月二十六日の間生活習慣病検診を実施した。時間計画通り受検により問題なく清々円滑に約五〇〇名のご受検が完了した。各部隊及び受検者の方のご協力ありがとうございました。来年度もご協力をよろしくお願いします。

## 松の除虫作業



薬剤の注入作業

二月九日、駐屯地の松の害虫駆除作業を実施した。駐屯地内の松約一〇〇本に松くい虫の原因となるマツノザイセンチュウ駆除の薬剤約二九〇本を幹に注入した。薬剤の効能が最大限になるように、夜明け前から朝にかけての寒さがこたえる時間の作業となったが、駐屯地内の美しい松の保全と国有財産の管理の一助とすることができた。

## 第三八九施設中隊

平成二十八年三月十八日、古河駐屯地において、第三八九施設中隊廃止に伴う廃止行事が行われた。行事は、座間及び駒門駐屯地から第四施設群の各部隊長の参加のもと、中隊長から群長の中隊長廃止報告、中隊長及び中隊旗の返還が行われた。執行者祝辞では、「第三八九施設中隊で培った経験を異動先の部隊でも発揮出来るよう頑張ってもらいたい。」と述べられ、中隊各個人にエールを送られた。引き続き行われた中隊長訓示では、「小さな蕾から大きな立派な花へ咲いてくれて、中隊長要望事項であった、「有終完美」で終える事が出来、嬉しく思う。」と言葉を述べた。第三八九施設中隊は、平成二十三年、第三六二施設中隊から第三八九施設中隊（コア中隊）へと改編し、第三八九施設中隊が立ち上がった廃止まで約五年間という短い期間ではあったが、中隊所属人員二十三名が手探りの状態から始まり、廃止業務まで各人が与えられた任務をしっかりと認識し、中隊一丸となつて五年間を全うする事が出来た。平成二十八年三月二十八日をもって、第三八九施設中隊は、廃止となり幕を下ろした。第三八九施設中隊存続間においては、各部隊よりたくさんのご支援、ご協力を頂き大変ありがたうございました。



各中隊長との記念撮影



中隊23名最後の記念撮影



# 第101施設器材隊



アスファルト作業



人力による上層路盤修正

平成二十八年一月二十七日から二月十七日の間、松戸駐屯地において、特殊器材中隊特殊器材小隊長星野曹長以下十二名で松戸駐屯地構内アスファルト舗装整備支援を担任実施した。

表層撤去十一m、表層掘削四十五m、路床掘削五十六m、アスファルト舗装二十八tを整齊と実施し、隊員一人一人が技術向上及び任務の完遂のため一致団結し、寒風の吹き荒れる中寒さをものともせず小隊長以下「高品質を追及」し任務を遂げた。

# 第102施設直接支援大隊



作戦会議



隊容検査(車両点検)

大隊は、平成二十八年二月十五日から二十日までの間、東富士演習場において平成二十七年東部方面隊訓練検閲を受閲した。

受閲間、東部方面後方支援隊長の要望事項である「任務の完遂」及び「人員・装備等異状なし」を具現しつつ、積雪の外における各種システムの活用等に取り組み、全隊員が一致団結して支援能力の最大限発揮に努め、東部方面後方支援隊として「概ね優良」の評価を得ることができた。

# 第301ダンプ車両中隊



施工前



施工後



点検

中隊は、平年二十八年一月二十五日から三月二十五日までの間、古河駐屯地構内整備工事支援を担任した。

作業指揮、工程管理及び土木技術能力の向上を目的とした支援任務を実施して、約四十六mの側溝を施工し、古河駐屯地の排水機能の向上に寄与した。

また、平成二十八年三月二十八日、駐屯地業務隊による完成検閲に中隊長以下七名が立会い、引渡しをもって任務を完遂した。

# 第337高射中隊



銃剣道



偽装

平成二十八年三月四日、中隊は、松戸駐屯地において行われた、第二高射特科群銃剣道競技会に参加した。成績は団体戦「準優勝」個人戦においては東谷士長が陸士の部三連覇等、優れた成績を残した。

短期間での練成ではあったが、中隊指導部の熱心な指導のもと、中隊で選ばれた精鋭選手の気迫のこもった試合及び中隊一丸となった熱のこもった応援により輝かしい成果を得た。

平成二十八年二月十四日から二十一日までの間、第二高射特科群は平成二十七年年度群検閲を受閲した。

第三三七高射中隊は、相馬ヶ原演習場に展開、第一施設団の築城支援を受けた強靱な陣地により任務を遂行し、群の「概ね優良」獲得に寄与した。

# 320基地通信中隊 古河派遣隊



電話・システム移設工事風景

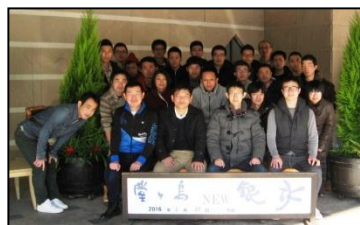
派遣隊は、第三八九施設中隊廃止に伴う駐屯地施設再配分に際し、関東補給処古河支処、第一〇一施設器材隊、第三〇一ダンプ車両中隊、司令業務室に対し電話及びシステムの移設支援を実施し、各部隊が新体制で二十八年度を迎えるにあたり通信基盤の強化に寄与した。



林士長 小澤3曹 鈴木2曹

三月二十三日付の定期異動で、鈴木二曹(霞ヶ浦通信隊)、小澤三曹(第一〇五基地システム通信大隊本部)、林士長(勝田派遣隊)の三名を派遣隊に迎えた。三名はいずれも茨城県出身。

# 第341会計隊



思い出の記念撮影

平成二十八年二月二十六日から二十七日、定期異動者及び任期満了退職者の送別会を兼ね伊豆方面にて厚生旅行を実施した。霞ヶ浦派遣隊も参加し、親睦の深まった楽しい旅行となった。



石川候補生



和田候補生

平成二十八年二月一日付、第三四一会計隊から二名の者が陸曹候補生の指定を受けた。これまでの努力を継続して立派な陸曹になつてほしい。